



新市立病院紹介シリーズ①

自然との調和を目指して

7月1日(月)に開院する新しい市立病院。どんな施設を備え、どんな医療を目指すのか、シリーズで紹介していきます。

新病院にご期待ください。

本体工事を終えた新市立病院の建物。その建物はどんな特徴を持っているのでしょうか。

新病院の建物には、人と自然が調和した環境を求めて、さまざまな配慮がされています。その概要を紹介します。

新病院 建物の概要

所在地 八坂町1882番地
 構造 鉄筋コンクリート
 規模 地下1階、地上8階、塔屋2階
 延べ面積 37,721.70㎡
 敷地面積 50,245.48㎡
 (第2期工事完了時約80,000㎡)
 その他 免震構造、屋上ヘリポート



コージェネレーション装置

省エネルギーの工夫

その一つが「コージェネレーション装置」の採用です。新病院では、都市ガスを使った発電機で、日常的に使う電気の一部を発電します。そのときに出る熱を空調や給湯に使い、エネルギーの無駄を少なくします。また、「蓄熱空調」の採用も、エネルギーの無駄を少なくする

工夫です。これは、電力需要の少なくなる夜間の電力を使って熱エネルギーを蓄熱槽の水や1階ロビーの床のコンクリートに蓄え、昼間の空調や床暖房に使うものです。

太陽エネルギーの利用

太陽エネルギーを利用する工夫として、「太陽光発電システム」と「太陽熱集熱器」があります。屋上には約100㎡の発

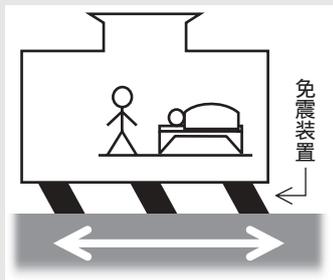
円柱形の積層ゴムで建物を支え、震動を吸収する免震装置(新市立病院では、167基を設置)



大地震でもだいじょうぶ 免震構造で揺れを吸収

大地震に対する備えも重要です。入院や外来患者さんなどに対する医療は、地震が襲っても中断できません。震災のときも病院機能を維持できるよう、免震構造を採用しました。

免震構造とは、建物の下部に積層ゴムによる免震装置を設置し、地震の震動エネルギーを吸収するしくみです。地面が揺れても、装置のゴムが変形することで揺れを建物に伝えにくくします。そのため、建物の中の人や設備の被害を抑え、病院としての機能を維持することが期待できます。



電パネルを設置しており、1時間あたり10キロワット発電することが出来ます。これは、一般家庭なら、3戸程度の電気がまかなえるほどの電力量です。また、太陽熱集熱器は太陽熱を利用して、空調や給湯の熱源にするものです。約170㎡のソーラー集熱パネルが設置され、一般の家庭でお風呂を約40回程度沸かせるほどの熱量を集めます。

ほかに、雨水や雑用水を処理し、1〜3階のトイレの洗浄水として利用するなど、環境との調和にできる限り配慮した建物になっています。問い合わせ先 市立病院事務局



屋上に設置された太陽光発電パネル(手前の黒っぽく見えるパネル)と太陽熱集熱器(奥の白っぽく見えるパネル)

☎ 26050 番内線330番
FAX ☎ 260754番